

シンポジウム | 特別講演

学術シンポジウム

口腔機能低下症のアウトカムと評価基準の再評価

座長:水口 俊介(東京医科歯科大学大学院高齢者歯科学分野)

Sat. Jun 23, 2018 2:10 PM - 4:00 PM 第1会場 (8F 大ホール)

【略歴】

1983年 東京医科歯科大学歯学部歯学科卒業
1987年 同大学大学院歯学研究科修了・歯学博士
1989年 同大学歯学部高齢者歯科学講座助手
2001年 同大学大学院口腔老化制御学分野講師
ロマリング大学歯学部客員教授
2006年 同大学大学院高齢者歯科学分野助教授
2007年 同大学大学院全部床義歯補綴学分野教授
2012年 同大学大学院高齢者歯科学分野教授
日本咀嚼学会理事長
日本義歯ケア学会理事長
日本老年歯科医学会常任理事, 専門医・指導医
日本補綴歯科学会理事, 専門医・指導医

【抄録】

2年前に発表された「口腔機能低下症」は本年の診療報酬改定に組み入れられた。学会見解論文作成時の喧々諤々の議論から、つい先日Gerodontology acceptまでであったという間に2年が経過した。しかしながらその間にもさまざまなエビデンスが追加され議論が継続している。

まず基調講演として東京大学高齢社会研究所教授の飯島勝矢先生に、昨年11月に柏スタディーから発表されたオーラルフレイルとMortalityに関する研究を中心に、今後全身と口腔に関する研究が地域包括ケアシステムの中でどのように生かされていくかを論じていただく。次に上田貴之先生に、これまでの報告を基に各下位項目の検査値のカットオフ値について再検討していただく。津賀一弘先生には、口腔内で最も重要なパフォーマンスを発揮する舌についての最新の研究結果から舌圧の再評価について解説いただく。そして最後に松尾浩一郎先生より今後の方向性について委員会からの提案を示していただき、活発な議論の資としたい。

[S6-2]口腔機能低下症の該当率と診断基準

○上田 貴之¹ (1. 東京歯科大学老年歯科補綴学講座)

【略歴】

1999年 東京歯科大学卒業
2003年 東京歯科大学大学院歯学研究科修了
2003年 東京歯科大学・助手
2007年 東京歯科大学・講師
2007年 長期海外出張 (スイス連邦・ベルン大学歯学部補綴科客員教授)
2009年 東京歯科大学復職
2010年 東京歯科大学・准教授
日本老年歯科医学会 専門医・指導医
日本補綴歯科学会 専門医・指導医

口腔機能低下症には7つの下位症状があり、それぞれに基準値が定められている。そして、該当する下位症状の数が3つ以上の場合、口腔機能低下症と診断することとされている。本会がこの定義を公表してから2年が経過し、平成30年4月の診療報酬改定により、口腔機能低下症に係る検査と管理が評価された。公表当時から比べ

て、臨床データも蓄積されてきた。また、本学術大会から課題口演のテーマの1つに口腔機能低下症が選択されるなど、臨床研究の結果も公表されつつある。

そこで、これまで蓄積された口腔機能低下症の検査結果や年代別の該当率などを基に、各下位項目の検査値のカットオフ値について再検討してみたい。また、口腔機能低下症のアウトカムを見据えた今後の本会の取り組みの方向性について、議論を深める機会としたい。